

「でんきで創る 夢・未来」

宮城教育大学附属小学校

5年1組 勝山 史

電気は不思議だ。おいしいご飯、暖かい服、どれも目に見える。ありがたさがわかる。しかし電気はちがう。味もない、臭いもない。つかむこともできない。いつも目立たない電線の中を行き来して、テレビやエアコンなどの電化製品をうごかす。大昔、電気が発見された時も、こすった琥珀に羽根がくっつくという目に見えない力から分かった。よっぽど電気は恥ずかしがり屋なのだ。

しかし電気は万能選手だ。電灯は街を明るく照らし、電車は人を運ぶ。肩こりには電気治療器があり、遠くに住んでいる祖父母と話をする時も電話を使う。私達の生活に電気はなくてはならない。

そして電気には大きな夢がある。これまでの石油などの燃料エネルギーは、二酸化炭素を排出し、地球温暖化などの地球規模の環境問題を引き起こした。しかし電気は環境にやさしいクリーンなエネルギーであり、しかも地熱や風力、太陽光など自然の力を電気エネルギーに変えることができる。まさに未来の地球環境を守るスーパースターだ。

また燃料電池や核融合など電気をよりよく作り出す技術のほか、家庭用太陽光発電システムや超電導技術など電気がもっと活躍できる技術、そしてLEDやリニアモーターカー、医療機器やロボットなど電気を活用した最先端技術が次々生み出され、夢のある未来を描き出しているのだ。

現在の日本では環境問題のほか、少子高齢化や財政問題など難問が山積みになっており、私達は明るい未来を描くことはなかなかできない。

しかし今回「でんきの月 作文コンテスト」を知り、電気のことを調べる中で電気が未来を希望の色に彩る素敵な絵の具であることがわかった。

不可能を可能にする。恥ずかしがり屋で目立たない電気だけれども、その心には未来を希望に変える無限の力を秘めているのだ。